

## 献辞

経済学部において長い間精力的に研究活動を行われ、学生の教育にご尽力くださった加藤浩平教授が、このたび定年を迎えられ、2023年度末を以って退職されることとなりました。ここに『専修経済学論集』第58巻第3号（通巻147号）を「加藤浩平教授退職記念号」として呈上し、専修大学経済学部の教職員一同、心より感謝の意を表したいと思います。

加藤教授は、1976年に東京都立大学経済学部をご卒業後、同大学大学院社会科学研究所に進学され、1978年修士課程を修了、1986年に博士課程を単位取得退学されました。この間、1981年より2年間、西ドイツ（当時）のハイデルベルク大学にドイツ学術交流会（DAAD）給費留学生として留学され、1984年から1987年までは、外務省専門調査員としてボンの在西ドイツ日本大使館に勤務されました。ご帰国後、玉川大学、法政大学、和洋女子大学、文教大学などで非常勤講師などを務められた後、1990年専修大学経済学部に助教授として着任され、2000年に教授に就任されて今日に至ります。

本学で主としてご担当いただいたのは、経済学部の専門科目「ヨーロッパ経済論」「経済統合論」「国際経済入門」などですが、「国際事情3（ドイツ語）」「外国経済事情（ドイツ語）」では、ドイツ留学のご経験を生かした外国語による経済学教育にご尽力いただきました。また、「ゼミナール」では、「英語で学ぶ現代ヨーロッパの経済と社会」をテーマに、やはり原語による経済学教育に力を入れて来られました。

学内行政の面では、学生部次長、就職指導委員会委員、国際交流センター委員会委員、教育開発支援委員会委員、図書館委員会委員、障害学生支援推進委員会委員など、重要な役職を務められました。

研究面での加藤教授の足跡を振り返ると、西洋経済史、とりわけマックス・ウェーバーの方法論に立つ19世紀後半以降のドイツ社会経済史研究を出発点に、東西ドイツ統合、欧州経済統合の同時代史的現状分析に軸足を移して来られました。歴史的な考察をバックボーンにしてリアルタイムで展開する経済事象を分析し、逆に現代の視点から歴史を振り返る、という理想的な研究スタイルを体現しておられます。

大学院生時代から、東西ドイツの異なる土地制度、農業労働者の存在形態の比較研究や、20世紀初頭のドイツの貿易構造、西ドイツの経済復興・戦後改革研究に取り組まれてきましたが、既述のとおり本学着任前、合計5年にわたりドイツに滞在され、特に外務省専門調査員として現地調査を行われたご経験が、現状分析への契機になったとのこと。本学の在外研究では、キールの世界経済研究所、ミュンヘンのifo経済研究所、さらにハレ（ザーレ）の経済研究所でも、研究実績を積み重ねました。

数多くの論文や共著書を世に問われていますが、その一端として、「欧州統合と独仏の経済関係—ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体の成立—」『社会科学年報』（第29号、専修大学社会科学研究所、1995年）、『ドイツの統合—分断国家から普通の国へ』（第4章担当。早稲田大学出版部、1999年）、『20世紀ドイツの光と影—歴史から見た経済と社会—』（第19、20、21、26章担当。芦書房、2005年）を挙げることができます。これら一連の著作において、第二次大戦後の東西ドイツ分割による経済構造の分断が、現在でもドイツ経済の有機的な結合を阻む負の遺産となっていることを明らかにされました。また、『管理された市場経済の生成—介入的自由主義の比較経済史』（第9章担当。日本経済評論社、2009年）では、ドイツの1930年代からの経済構造変化を対象に、比較経済史の可能性を試みておられます。

近年は研究対象を欧州連合（EU）の経済統合にも広げられ、たまたま私が金融政策を専門としている関係で、欧州中央銀行（ECB）の政策につき何回か議論し、ご教示いただいたことが、個人的な思い出となっております。

ご退職にあたり、以下のメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。

専修大学では自由な研究環境と優秀な職員のご助言のもと、貴重な研究生生活を送ることが出来ました。図書館の蔵書も、全国レベルでも充実している方ではないでしょうか。育友会の懇談会や地区入試、各地セミナーハウスでの学生とのゼミ活動では日本各地を訪れる機会を与えられ、貴重な体験となっています。教職員のマイクロバスでは降車時に各自が運転手にお礼の言葉を欠かさないのも校風の一部をよくあらわしていると思います。授業に関しては、教員側が、要求の高さもあり、学生の勉学態度への不満、嘆きを聞くことが多々ありますが、学生の

側もシビアな目で教師を観察している場面に多々遭遇しました。教え、教えられる関係であったと思います。望むらくは、学内での異分野の先生方との相互交流がもっと出来たらよかったかなと思います。生田緑地を背後に控え、大山参りの古き良き旧街道沿いでもあり、自然豊かで、関東平野を一望する多摩丘陵地の上に立つ、懐かしの校舎で30有余年、研究、教育活動に専念できたことに感謝しています。

加藤先生には、ご退職後もご健康に気をつけられ、本学名誉教授として学界でいっそうご活躍くださいますよう、祈念いたします。また、専修大学及び経済学部の発展のために、折に触れてご助力いただけますようお願い申し上げます。

加藤浩平教授の古稀と定年でのご退職を心よりお祝いしつつ、これまでいただいたご指導への感謝の念をこめて、献辞とさせていただきます。

2024年3月

専修大学経済学部長 田中 隆之